

# 事業のタネシート

活動地域・団体名：天理市環境連絡協議会

## 事業名称 1：「水と緑のネットワーク」プロジェクト

### あらすじ

本事業は、2015年奈良県の支援を受け立ち上げた事業で、里山・水源の森づくり、ホタル舞う川、イチョウ並木（約千本）保全を連携・持続可能的に推し進めてきた。この度のプラットフォーム事業では、日本最古の古道「山の辺の道」沿いの自然環境、史跡・歴史・文化・くらしの連携を推し進め、地域の持続可能な社会と観光、六次産業構造の構築を図りたい。

### ストーリー

東部・山の辺の道沿いの里山を水源・バイオマスエネルギーの森とする。天理市中央を流れる布留川の水質改善とイチョウ並木の緑陰がホタルの増加に結びついた。さらに、イチョウの落葉を果樹園などで肥料化し、農産物生産に活用することをモデル的に実践してきた。さらに、日本最古の道「山の辺の道」沿いの天理大学・親里競技場などの里山において「SDGsの森づくり」を推進中。内容としては、モデル的な竹林・落葉広葉樹の整備と、利活用（マキ・炭化、竹パウダー製造と利活用、竹ハウス・ベンチづくり、森の幼稚園、人材、健康、バイオマスの森づくりなど）を推進する。また、地域ぐるみのミュージアム化「山の辺の道・SDGsエコミュージアム・構想」を実現するため、データの集積、ICTなどによる発信の方法を検討した。

### 事業の骨子

### 現時点で想定される 課題・ボトルネック

事業の骨子		現時点で想定される 課題・ボトルネック
①ありたい未来	地域ぐるみのミュージアム化「山の辺の道・SDGsエコミュージアム・構想」を中心に、「SDGsの森づくり」（バイオマス資源の利活用と景観）などにより、持続可能な地域づくりを推進する。自然環境と暮らし、経済、教育、防災などの課題を複合的に解決するモデル事業を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業の周知方法</li> <li>・奈良県、天理市、天理教、天理大学と連携</li> <li>・地元NGO・NPO間の交流・協働</li> <li>・予算の裏付け</li> </ul>
②課題	里山・竹林の荒廃と保全、コロナパンニックによる観光客の減少、少子高齢化、六次産業構造の構築、街路樹のメンテナンスなど	
③なぜこの事業をやるのか（Why）	天理市は、東西日本の幹線道路「名阪国道」、最古の道「山の辺の道」「里山」に恵まれ、地域の問題解決のモデル的なケースになり得る。	
④地域資源	里山、ホタル、街路樹、天理大学、ラグビー、山の辺の道、史跡、名阪国道、新クリーンセンター（建設中）、奈良県 なら歴史芸術文化村など	
⑤商品・サービスの具体的な内容（What）	山の辺の道周辺の里山・竹林・史跡・古墳・くらしなどを利用した集客産業、「やまのベGO！」（地域案内アプリ）、バイオマス電熱供給システム、イチョウのマナ板など、落葉堆肥利用、ホタルなど河川環境、イチョウ並木（黄葉の撮影スポット、歩行者天国）など	
⑥担い手（Who）	地元NPO・NGO、天理大学、企業（バイオマス発電、マキボイラー、旅行会社）、天理市観光課、農林課、教育委員会、森の幼稚園など	課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像
⑦事業で生じる循環	イチョウ並木が町の品格を上げ、人と自然のバランスの象徴であるホタルや里山、大学生などが街に活気をもたらす。さらに、他のプロジェクトとの相乗効果で、経済的なメリットが期待できる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>天理市長 ・天理市（農林課、観光課、土木課など）</li> <li>・天理教 ・天理大学 ・林業専門家・バイオマス利用専門家など</li> </ul>
⑧事業で生じる成果	山の辺の道沿いの自然・史跡・文化・くらしを総合的にアピールすることで、町の品格向上、観光などの集客、六次産業構造の構築が期待される。	

事業名称 2 : 天理市における地域共生再生可能エネルギーの導入促進

あらすじ

天理市は2021年3月にゼロカーボンシティを宣言したが、市内の再生可能エネルギー普及率は数%である。カーボンニュートラルを目指し、公共施設をはじめ、大学、民間施設、住宅に太陽光発電を普及することや、市内面積の20%に上る農地、耕作放棄地に営農型ソーラー導入、市内面積の38%の森林保全を兼ねたバイオマス利用を進めて市内の再生可能エネルギーの発電で市内消費電力を賅うことを目指す。また、再生可能エネルギー電力を供給する地域新電力会社を創設し、エネルギーの地産地消と、余剰電力はふるさと納税制度を活用し、市外に供給することで地域経済の向上を目指す

ストーリー

学校、公民館等公共避難所にレジリエンス太陽光発電導入をはじめ（南中学校で実現）、その他公共施設にも導入、大学、民間建物の屋根にPPA手法で設置する。天理大学などの学校キャンパスをカーボンニュートラルモデル地区として具体化する。耕作放棄地、農地に地元農家、若手起業家、農業法人と共同で営農型ソーラーと農業経営を実現できるスキームを構築し、実現化。そのために他地域の事例を参考に種々の栽培作物生産のモデル農地を試行する。天理市に多くみられる里山の保全、活用と伐採された間伐材によるバイオマス利用の普及を図るため、天理に適した小型熱電併給型ガス化発電システムのモデル事業を実現する。これらの再生可能エネルギー電力を地域に供給、販売する地域新電力事業を地域資本、行政、既存新電力会社と連携し実現する。

事業の骨子

現時点で想定される  
課題・ボトルネック

①ありたい未来	防災対応太陽光発電、営農型ソーラー、バイオマス利用など地域共生再生可能エネルギーの普及と地域新電力事業化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・天理市ゼロカーボンに向けて、再生可能最大限導入の計画的・段階的戦略策定</li> <li>・再生可能普及につながるモデルシステム、モデル地区の実現</li> <li>・地域共生再生可能エネルギー導入による経済効果スキーム</li> <li>・天理で活動できる地域共生再生可能エネルギーの専門人材確保</li> </ul>
②課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・天理市南中学校に初のレジリエンス太陽光発電PPAを導入したが、民間施設等さらなる拡大。</li> <li>・天理農業委員会に営農型ソーラーの説明を行なったがさらに地域の農地所有者に周知する。</li> <li>・耕作放棄地の活用できる事業スキーム、農業担い手の発掘</li> <li>・間伐材、廃材等原料調達を確保し、天理に最適なバイオマス発電システムの構築</li> <li>・地域新電力会社の事業スキーム構築</li> <li>・地元に着定できる再生可能エネルギー専門人材育成</li> </ul>	
③なぜこの事業をやるのか (Why)	天理市ゼロカーボン実現のため、地域共生再生可能で市内電力需要のRE100と地域経済向上	
④地域資源	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校、公共施設、宗教施設、民間施設等、太陽光パネル設置可能な低層建物が多い。</li> <li>・耕作放棄地、農地が天理市総面積の20%ある。</li> <li>・天理市総面積の38%が森林面積で里山が多い。天理大学等、再生可能推進ポテンシャルを期待できる若者がいる</li> </ul>	
⑤商品・サービスの具体的な内容 (What)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公共施設、民間建物に太陽光発電PPA事業メニュー</li> <li>・営農型ソーラー推進のために農業法人、農業起業家、と再生可能事業者のタイアップ</li> <li>・熱電併給小型バイオマスガス化発電システム導入のため、林業家、林業起業家とのタイアップ</li> <li>・地域再生可能電力会社の創設</li> <li>・ふるさと納税 再生可能返礼品メニュー化</li> </ul>	
⑥担い手 (Who)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ステークホルダーに参加している再生可能関連企業、若手企業家、天理大学</li> <li>・地域内外の農業法人、林業家、再生可能事業者</li> <li>・天理市役所関連部門</li> </ul>	課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像
⑦事業で生じる循環	天理市内で再生可能普及⇒ゼロカーボン化⇒地域経済向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境省近畿地方事務所、きんき環境館</li> <li>・天理市役所</li> <li>・再生可能事業者、金融機関、コンサルティング会社等のステークホルダー</li> <li>・天理大学等の学術期間</li> </ul>
⑧事業で生じる成果	天理市内で再生可能普及によるゼロカーボンに向けての推進と地産地消エネルギー活用による地域経済向上	

事業名称3：まちづくり-SDGsで天理を再ブランディング

あらすじ

天理市の強みは、宗教都市ならではのネットワークと利他精神である。また、特色ある教育機関が多数存在していて、若者が多いことも強みである。そして、年間で数十万人の観光客やハイカーが訪れる「山の辺の道」がある。しかし、反面、宗教都市ならではの外部からのアクセスしづらさが弱みとなっている。また、他地域と同様に、少子高齢化や若者の市外流出、山間地域の過疎化、商店街の衰退を課題として抱えている。以上の、強みを活かして、課題を克服していくために本事業を行うのである。

ストーリー

天理市は、人の気持ちが温かく、自然に恵まれて景観がよく、ホスピタリティにあふれるクリーンな環境で人を育む力が高い。しかし、近年では、商店街の衰退と若者の転出超過が続き、まちの賑わいが減っている。本事業では、SDGsの17の目標に準拠して、まちのあちこちで芽生えているソーシャルビジネスを繋ぎ、雇用を創出するとともに、子ども・若者・大人・高齢者など多世代の交流を通じて、学びや成長があり、幸せを感じられるような場所にする。

事業の骨子		現時点で想定される課題・ボトルネック
①ありたい未来	<p>キーワードは「幸福感」である。人が生涯にわたり幸せに生活するには、経済的な裕福だけではなく、人のつながり、仕事のやりがい、健康、地域社会などが必要である。これらを創出するために、大学生を中心にして、天理市が学びのフィールドとなり、若者が愛着をもてる場所を目指す。また、精神的に辛くなりがちな現代社会で、天理にくることで、自然や動物とのふれあいを通じて、セラピー効果が実感できる地になりたい。</p>	<p>・大学生は4年で一巡して卒業していくことから、起業家精神（アントレプレナーシップ）を持つ若者を短期間で育てられるかが課題である。幼少期から起業家精神を育てる起業家教育の実施と、起業家（ソーシャル・アントレプレナー）を育てるインキュベーターのような場をつくるができないか。</p>
②課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若者の市外流出（幼・小・中・高・大学までの若者世代人口は県内でも突出しているが、大学を卒業すると就職のために市外へ流出して、流出超過が起こっている）</li> <li>・若者の流出は雇用先がないことが原因であり、市内や近隣地域の雇用創出が命題となる</li> <li>・まちのメインストリートである商店街が衰退して、空き店舗が増えて、賑わいが減りつつある。</li> </ul>	
③なぜこの事業をやるのか（Why）	<p>「住み続けられるまち」を目指すために必要なものは何かと考えたとき、雇用の創出とにぎわい、利便性、住みやすさ（教育環境を含む）等があげられた。まずは、まちに賑わいを取り戻すことで、「楽しさ」が演出できれば、天理に住み続ける若者が増える。また、天理を訪れ、天理を知り、新たな魅力を伝えることで再ブランディングが可能になるからである。</p>	
④地域資源	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人の温かさ、人情、つながりなどの人的ネットワーク</li> <li>・困った人に手を差し伸べて、支え合うような市民の互酬性</li> <li>・天理に愛着を持っている若者たち（幼少期より天理になじみ、高校から大学までの7年間を天理で過ごす若者たちも多く、日本全国や世界中の若者が天理に愛着を持っているという宗教都市ならではの事情）</li> <li>・日本全国、世界中に広がる天理教のネットワーク</li> <li>・歴史や文化（石上神宮・天理教教会・山の辺の道・古墳群・寺社・スポーツ</li> </ul>	
⑤商品・サービスの具体的な内容（What）	<ul style="list-style-type: none"> <li>①地域と大学の連携による事業（おとなの大学祭）</li> <li>②「大学生が商店街のためにできることプロジェクト」による商店街の応援</li> <li>③環境人材をつくるための資格制度</li> <li>④山の辺の道を訪れる人がお土産に購入できる商品開発とブランディング</li> <li>⑤お手伝いネットワークのプラットフォーム（新しい産業を創出するために、手伝って欲しい人と少しくらいなら手伝える人をつなげるネットワーク。クラウドファンディングの労働力版）</li> </ul> <p>①②③④を通じて、天理市を若者の学びのフィールドにすることで若者の成長を促す。⑤によって新規事業を創出しやすくする。</p>	
⑥担い手（Who）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・天理市で起業したい若者（ステークホルダーの中では、アラウンド・イノベーションのようなソーシャルインベーターや大学生）</li> <li>・資格制度によって環境問題やSDGsに理解をすすめた若者や市民</li> </ul>	

⑦事業で生じる循環	天理市を学びのフィールドにすることで人材が育ち、ソーシャルビジネスの起業を促進して、雇用が創出される。また、賑わいを取り戻せば、交流人口が増えて、移住・定住者が増えることが予想されるので、天理市に経済効果をもたらす。	行政組織（奈良県、天理市）・地域住民（自治会組織や志のある市民）・天理大学・天理高校・天理中学校、市内小中学校などの教育機関・ステークホルダーの各企業や団体
⑧事業で生じる成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・天理のまちが賑やかになる</li> <li>・現代社会では失われつつあるコミュニティや人のつながりが強化される</li> <li>・天理で育まれた環境人材が日本全国や世界で活躍する</li> <li>・本事業のステークホルダーの連携によるコレクティブ・インパクト</li> </ul>	